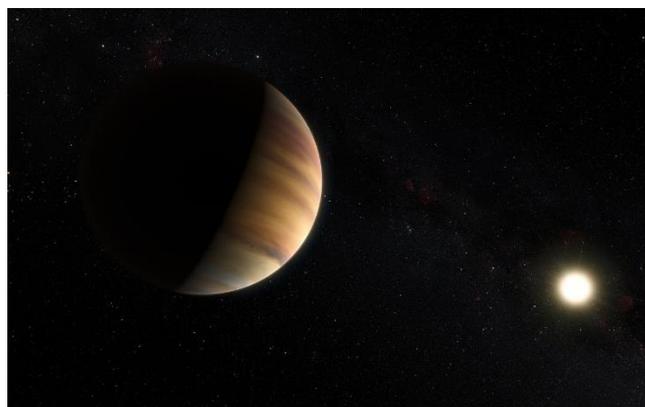


今年もペガサス座見ゆざ

ペガサス座が東の空に見えるようになると、今年も秋がやってきたなと感じます。

春、夏、冬の夜空には、3つの星を結んでできる「大三角」と呼ぶ季節のシンボルがありますが、秋だけは、4つの星を結んでできる「秋の四辺形」がシンボルです。その「秋の四辺形」は、翼つばさを持ち空を駆ける馬、天馬てんまペガサスの胴体どうたいの部分にあたっています。



ペガサス座51番星(右)と周回するデミディウム(左)の想像図
Credit:ESO/M.Kornmesser/NickRisinger (skysurvey.org)

そんなペガサス座には「ペガサス座 51番星」という太陽によく似た恒星に こうせいがあります。この星は、地球から約 50 光年 (光の速さで 50 年かかる距離きより) のところにあり、1995 年に、太陽以外の恒星を回る惑星として、初めて発見されました。この功績で、発見者のマイヨール氏とケロー氏には 2019 年にノーベル賞しょうが授けられました。

「デミディウム」と名づけられたこの惑星の大きさは木星のおよそ半分、51番星から約 750 万 km(太陽と地球の距離の 1/20)というとても近い位置を、わずか 4 日の周期で公転しています。ガスが主体のこの惑星はとても高温のため、ホットジュピターとも呼ばれています。「デミディウム」のように、太陽以外の恒星を周る惑星は、2020 年現在げんざい4000 個以上見つかっています。中には地球によく似た惑星もあり、そのため、いくつかの惑星には生命がいるのではないかと期待されています。

秋の夜長、温かい服装ふくそうでペガサス座を眺めて、はるか彼方かなたの不思議な惑星ふしぎに想いを馳せおもてみるのはいかがでしょうか？
(解説員:伊藤 貴大いかせつ いたう たかひろ)